



# 河中だより

○実力を養う  
○友愛を深める  
○品性を高める

《第13号》

2018年3月15日発行

宇都宮市立河内中学校

## ○卒業式：131名の卒業生が巣立ちました。

3月12日（月）に、多くのご来賓の皆様や保護者の皆様のご臨席を賜り、第32回河内中学校卒業式が厳粛な雰囲気の中で執り行われました。131名の卒業生の皆さんは、中学時代の思い出を胸にそれぞれの道へ旅立っていきました。在校生を代表して熊本海人さんが「送辞」を述べ、卒業生を代表して宮地遥菜さんが、思い出や感謝の気持ちを込めて「答辞」を述べました。

-----「送辞」 熊本 海人 《抜粋》-----

卒業証書を手にした今、皆様の心の中には、なつかしくもかけがえのない日々が思い起こされているのではないのでしょうか。大空の下、最後の最後まで熱戦が続いた運動会。団長を中心に円陣を組み、心を一つにして、団のため、クラスのために、一生懸命に走り、跳び、声援を送る姿は、カッコよく輝いて見えました。中でも、一番心に残っているのは閉会式です。一緒に戦った仲間と肩を組み、涙を流し、大声で歌った校歌には、きっと様々な思いがこめられていたことでしょう。最後の団長からの「ありがとう。」の言葉に、勝敗を超えたもっと大きなものを感じました。また、美しいハーモニーを奏でた合唱コンクール。歌に込められた心に私たちは圧倒されました。ステージでの真剣なまなざしや息づかい、心を震わす歌声が、今でも聞こえてくるようです。歌い終えた皆様の表情から、結果を超えたところにあるかけがえのないものがひしひしと伝わってきました。「こんな合唱を創り上げたい。」私たちはそう思いました。

-----「答辞」 宮地 遥菜 《抜粋》-----

3年生になると、全ての物事に「最後の」という3文字がつくようになりました。最後の運動会。指先の動きにまでこだわり、心を一つにして踊ったよさこいソーラン。声を掛け合い、新記録を目指した大縄跳び。閉会式での涙の校歌斉唱。3年生全体が一つになった瞬間でした。最後の文化祭。私たちらしい合唱を求めて、時にはぶつかり合いながらも、最高の合唱を作り上げることができました。出会ってから3年。そばにいた事が当たり前だと思っていた仲間。私たちはこんなにも大切な宝物をいつの間にか見つけていたのです。仲間がいたからこそ、今日のこの日まで、3年間頑張ってきたのだと思います。共に笑い合い、涙する事ができるのも今日で最後だと思うと、寂しさが胸が一杯になります。これから私たちは、一人一人別々の道を歩んでいきますが、私たちはいつまでも仲間です。今まで本当にありがとう。そして、私たちの成長をいつも温かく見守ってくれた家族には、感謝してもしきれません。大きな壁にぶつかった時、優しい言葉をかけて、そっと背中を押してくれました。私たちが生まれた日から今日まで、たくさんの心配をかけましたが、あの頃よりは少し成長できていますか。これからもたくさんの心配をかけるとは思いますが、温かく見守ってください。これから私たちは、それぞれの未来へ向かって歩き出します。歩き出そうとしている道は、平坦ではないかもしれませんが。進むべき道の先にどんな事が待っていても、私たちはこの河内中学校で、学んだことを思い出して、一步ずつ歩いていきたいと思っています。



## ○3月23日に修了式を迎え、平成29年度が終了します。

保護者の皆様には、今年度1年間、本校の教育活動に、ご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。3月23日の修了式をもって平成29年度の教育活動が終了します。16日間の春休みになりますが、地域やご家庭で、子どもたちの温かな見守りをお願いいたします。

生徒昇降口に飾られた雛人形 3 / 1

